

IV 研究のまとめ

平成31年度（令和元年度）、令和2年度、3年度は、『「わかった！できた！」から、一步進んだ学びを目指した指導～新学習指導要領をふまえた授業改善と教育課程の工夫～』という全体テーマのもと、小学部、中学部、高等部の三つのグループに分かれて研究を進めてきた。初年度は新学習指導要領について理解を深める研修から始め、改定の基本方針を踏まえて本校の教育活動を見直し、新学習指導要領の目標に沿った内容の実施ができるようにと研究を進めてきた。

学部ごとに研究を進めたことで、児童生徒の発達段階や教育課程ごとの教科等の編成、学部の指導体制などにより、中心的な取り組みやアプローチの仕方にそれぞれ違いは見られた。

年間指導計画や単元指導計画の見直しについて、小学部では、学習指導要領の三つの柱に沿った年間指導計画の目標と内容の見直しを行い、音楽、体育、生活単元学習の単元指導計画の作成や自立活動における指導目標・指導内容設定シートの活用に取り組むことができた。中学部では、合わせた指導における関連教科の目標の明確化、系統的・段階的な目標と内容の設定に留意した単元指導計画の作成に取り組むことができた。高等部では、課程や学年を越えたグループを編成して見直すことで、ほぼ全ての教科と合わせた指導において、課程や学年の系統性や段階に即した計画に改善することができた。

「主体的・対話的な深い学び」について、小学部では、事例より ICT 活用や児童の意見を取り入れた授業展開が意欲を喚起し、主体的な授業につながるということが分かった。また、自立活動における児童の主体的な取り組みを促す指導について教材や授業展開が大切であることが分かった。中学部では、計画の段階から単元指導計画の指導上の留意点に「主体的」「対話的」「深い学び」の視点を明記することで、教員が意識して指導できるようになった。また、自己評価シートを活用して生徒が振り返りをする中で「何ができるようになったか」を明確にし、次時につなげることができた。高等部では、「対話的な学び」を目指し、生徒同士の話し合いの場を設定したことが主体的な授業につながった。

学校全体として、学習指導部を中心に年間指導計画や単元指導計画の様式を整え、マニュアルを作成したことも成果の一つと言える。様式に沿って作成していくことで教科における三つの柱の目標を意識し、合わせた指導における関連教科の目標も意識できるようになった。また、評価項目を明記したことで簡潔に評価し、改善しやすくなった。さらに、個別の指導計画においても目標の三つの柱や評価の3観点を意識した表記を試みているところである。

学部共通の成果として、年間指導計画や単元指導計画の作成を担当者任せにせず、学習グループや研究グループの教員と話し合っただけで見直し改善したことで、作成の視点を共有できたことがあげられる。それは、授業研究会での授業改善も同様である。複数の目で見ることによって多くの教員が共通に感じることや多面的な見方を学ぶことができたからである。中学部や高等部の記述にもある「学習指導要領に触れ、内容を理解することができた」ことも小学部も含めた全教職員の資質向上につながった成果と言える。

この3年間の研究において学習指導要領の基準に則った各教育課程の指導計画や単元指導計画は整ってきたといえる。その計画に基づいた授業実践も行い、「主体的・対話的で深い学び」につな

る授業づくりのポイントも分かってきた。しかし、本校の児童生徒の実態は多様であり、教育課程の目標や内容が必ずしも全ての児童生徒の実態に合ったものであるとは限らないことも現状である。中学部の単元指導計画の目標設定を具体的目標としてA、Bと2段階で表記しているのも、生徒の実態に近い目標設定にしたいと考えたためである。今後は、さらに特別支援教育の根幹である「個に応じた指導」に立ち返り、一人一人がそれぞれの教育課程の中で「主体的・対話的で深い学び」を実現させていけるよう指導・支援を充実させていきたい。